

平成16年度（第48回）  
岩手県教育研究発表会発表資料

学年・学級経営

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の  
在り方に関する研究  
- 学級経営プログラムの作成と活用をとおして -

研究協力校  
花巻市立湯口小学校

平成17年2月8日  
岩手県立総合教育センター  
教科領域教育室  
藤川 公子

## 目次

研究の目的	1
研究の見通し	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
研究結果の分析と考察	2
1 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成	2
(1) 児童相互の好ましい人間関係についての基本的な考え方	2
(2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の基本的な考え方	2
(3) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラム作成の視点	2
(4) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの実際	4
2 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの活用	5
(1) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方	5
(2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方の手順及び留意点	5
3 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した指導実践とその分析・考察	6
(1) 指導実践	6
(2) 指導実践の目的	6
(3) 指導実践の計画	6
(4) 指導実践の概要	7
(5) 指導実践の分析と考察	12
(6) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正の視点	14
4 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正	14
(1) 学級経営プログラムの活用の手引きの作成と付記	14
(2) プログラム ～ の見直しと表記の工夫	16
(3) 学級経営プログラムを活用した指導計画案の例示	17
5 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究のまとめ	18
(1) 成果	18
(2) 課題	18
研究のまとめ	19
1 研究の成果	19
2 今後の課題	20

おわりに

【参考文献】

【別冊資料】

## 研究の目的

小学校学習指導要領総則には、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てることの重要性が示されている。学級経営の充実を図るためには、学級を構成する児童一人一人が、学級集団の人間関係の中で安定した立場を得て、互いに心理的な圧迫がなく、学級全体が協動的、協力的である、児童相互の好ましい人間関係を育てることが必要不可欠である。

しかし、現在、学校教育で問題となっている学級崩壊、いじめ、不登校等が学級の人間関係に起因していることが多い。このことは、家庭や地域における児童の人間関係の希薄さや社会体験の不足から、他者との適切なかわり方を学ぶ機会が少なくなってきたことと、学級内の人間関係の修復を図る指導にとどまっている状況が多いことによると考えられる。

このような状況を改善していくためには、学級経営全体を人間関係を育てるという視点から見直し、学級における様々な場や活動を整理し、相互の関連を図った学級経営プログラムを作成し、それに基づいた意図的、計画的な指導を進めていくことが必要である。

そこで、この研究は、学級経営プログラムの作成と活用をとおして、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方を明らかにし、小学校における学級経営の充実に役立てようとするものである。

## 研究の見通し

小学校学級経営において、以下の視点に沿って、学級経営プログラムを作成し、児童の人間関係の育ちに応じて活用すれば、意図的、計画的に児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進めていくことができると考える。

- (1) 年間を見通した段階的な指導
- (2) 教育活動全体による組織的な指導

## 研究の年次計画

この研究は、平成15年度から平成16年度にわたる2年次計画である。

### 第1年次（平成15年度）

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本的な考え方の検討、基本構想の立案、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成

### 第2年次（平成16年度）

学級経営プログラムを活用した指導実践とその結果の分析と考察、学級経営プログラムの改善・修正及び研究のまとめ

## 本年度の研究内容与方法

### 1 目 標

小学校学級経営において、学級経営プログラムを活用した指導実践、その結果の分析・考察をとおして、学級経営プログラムの妥当性の検討及び改善・修正をし、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究のまとめを行う。

### 2 内 容

- (1) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの活用  
昨年度作成した児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方を検討し、その手順及び留意点を明らかにする。
- (2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した指導実践とその分析・考察  
学級経営プログラムを活用した指導実践を行い、その結果について、学級担任教師等へのアンケートを基に分析・考察する。
- (3) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正  
児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した指導実践から明らかになった学級経営プログラムの改善点、修正点に基づき、学級経営プログラムを検討し、改善する。
- (4) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究のまとめ  
指導実践の成果と課題をまとめ、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究の見通しの妥当性について明らかにする。

### 3 方 法

#### (1) 指導実践

学級経営プログラムを活用した指導実践計画に基づいた指導実践を行い、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究の見通しの妥当性を確かめる。

(2) 記録法

学級経営プログラムを活用した指導実践の中での学習の成果や児童の様子を記録し、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの有効性を確かめる。

(3) 質問紙法

研究協力校の教師を対象とした調査を指導実践後に行い、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究の見通しの妥当性の検討及び児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正に役立てる。

4 研究の対象

研究協力校 花巻市立湯口小学校

研究結果の分析と考察

1 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営についての基本的な考え方とそれに基づく基本構想及び学級経営プログラムの作成については、本研究の第1年次（平成15年度）に明らかにした。この第1年次の内容は、第2年次の研究内容でもある「児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの活用」の基盤となるものであり、以下にその概要を示す。

(1) 児童相互の好ましい人間関係についての基本的な考え方

児童相互の好ましい人間関係とは、信頼の絆で結ばれ、何でも自由に安心して話し合い、支え合い、高め合うことのできる温かな関係であると考えます。このような人間関係は、まず、児童と児童がふれ合い、交流し、互いを理解し合う「相互理解」の関係の成立が基盤となる。

「相互理解」の関係は、交流の機会が増えるとともに深まり、自他のよさや違いは互いを特徴付ける個性として認知されるようになる。このとき、互いの個性を肯定的に受け止め、認め合う「相互受容」の関係が成立することにより、児童は心理的な安定感を得、他者への信頼感を抱くようになる。他者への信頼感は、互いに協力し合う「相互協力」の関係の成立によって深まる。すなわち、共通の目的に向かって助け合いながら活動することによって、互いを信頼できる他者としてとらえることができるようになる。

さらに、互いの向上を願いながら、自他の思いや考えを尊重してかわる「相互尊重」の関係が成立することで、児童相互の信頼関係は確かなものとなり、維持されると考える。

【表1】児童相互の好ましい人間関係を構成する要素

要素	意味
相互理解	互いの個性を理解し合う関係
相互受容	互いの個性を肯定的に受け止め、認め合う関係
相互協力	互いに助け合い、協力し合う関係
相互尊重	互いの思いや考えを尊重し合う関係

そこで、本研究で目指す児童相互の好ましい人間関係を構成する要素を【表1】に示すように、「相互理解」「相互受容」「相互協力」「相互尊重」ととらえる。

(2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の基本的な考え方

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営は、個や集団に働きかけ、児童相互の関係を深め、好ましい方向へと発展させる年間をととした長期的な営みである。このような学級経営を可能にするのは、学級担任教師の明確な経営ビジョンの有無である。すなわち、年間の「どの時期」に、「どのような人間関係」を育てていくのかについての経営の構想をもち、児童相互の人間関係の深まりに応じた段階的な指導を計画することが必要である。

また、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営は、あらゆる教育活動において機能していくものであると考える。そこで、「どの教育活動」において「どのような指導・配慮」をしていくのかについての具体的な指導の構想をもち、それぞれの教育活動の関連を図りながら組織的に進めることが重要であると考えます。

これらのことから、本研究では、「年間を見通し、段階的に育てる指導」「教育活動全体を通じ、組織的に育てる指導」の二点に着目し、これらの視点から児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の指導構想を検討し、学級経営プログラムを作成した。

(3) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラム作成の視点

ア 学級経営プログラムとは

学級経営プログラムとは、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進めるために、「年間を見通した段階的な指導」と「教育活動全体による組織的な指導」の視点に基づいて

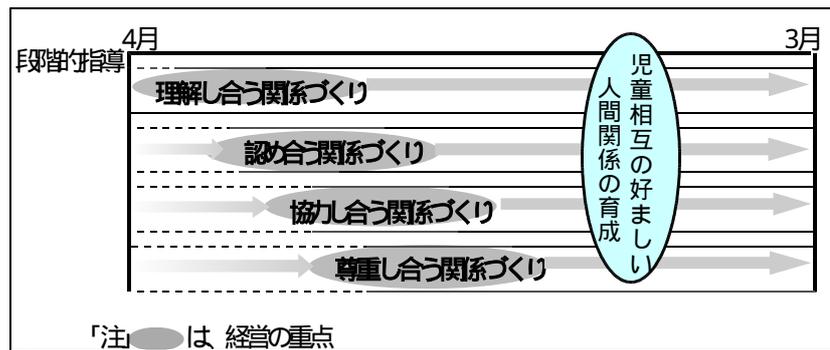
作成した指導構想である。学級経営プログラムに、各教育活動の指導内容、活動内容、配慮点を示すことで、学級担任が年間の指導の見通しをもち、実際の指導計画を立案・運営する上でよりどころとなり、児童相互の好ましい人間関係の成立、発展、維持を図る学級経営を意図的、計画的に進めることが可能になると考える。

イ 児童相互の好ましい人間関係を育てる「年間を見通した段階的な指導」

「年間を見通した段階的な指導」とは、児童相互の人間関係を好ましい関係へと育てる指導を段階的にとらえ、一年間の学級経営に位置付け、重点化を図る指導である。そこで、先に述べた児童相互の好ましい人間関係を構成する四つの要素を基に、段階的な指導を【表2】に示す～とと考え、それぞれの指導に対応する学級プログラムとして四つのプログラムを作成することにした。【図1】は、段階的な指導を児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の重点として配した年間指導構想である。

【表2】学級経営における児童相互の人間関係を育てる段階的な指導

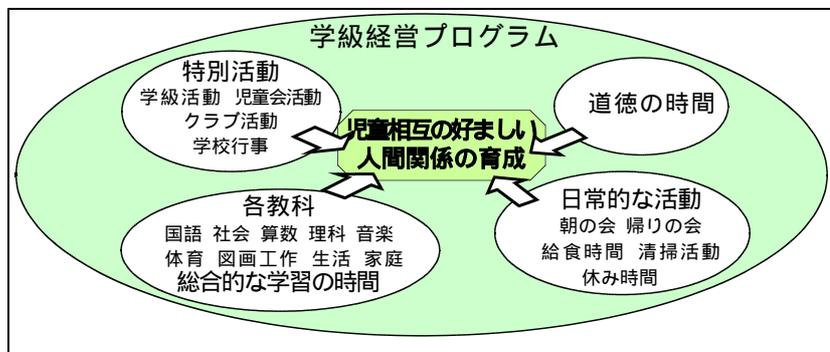
段階的な指導	内容
理解し合う関係づくり	互いにふれ合い、互いの嗜好、習慣、興味・関心、行動様式等を理解し合う関係を育てる
認め合う関係づくり	互いのよさや違いを理解し合い、認め合う関係を育てる
協力し合う関係づくり	互いのよさを生かし合いながら、助け合い、共に協力し合う関係を育てる
尊重し合う関係づくり	互いの思いや考えを理解し合い、互いを高め合い、尊重し合う関係を育てる



【図1】児童相互の好ましい人間関係を育てる段階的な指導を学級経営の重点に配した年間指導構想

ウ 児童相互の好ましい人間関係を育てる「教育活動全体による組織的な指導」

「教育活動全体による組織的な指導」とは、学級で展開されるあらゆる教育活動において、児童相互の人間関係を育てる学級経営を機能させ、相互の関連を図ることである。教育活動において児童相互の好ましい人間関係を育てる指導・配慮が同じ方向をもち、関連が図られるとき、より効果的な指導が期待できると考える。そこで、学級経営プログラムの四つのプログラムのそれぞれに、【図2】に示すような教育活動を位置付け、関連を図ることにした。なお、本研究において、「特別活動」は、学級を単位として行われる「学級活動」を中心に取り上げる。



【図2】児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムに位置付け教育活動とそのかわり

エ 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラム作成の手順

学級経営プログラムの作成は、以下の方針と手順に基づいて行った。

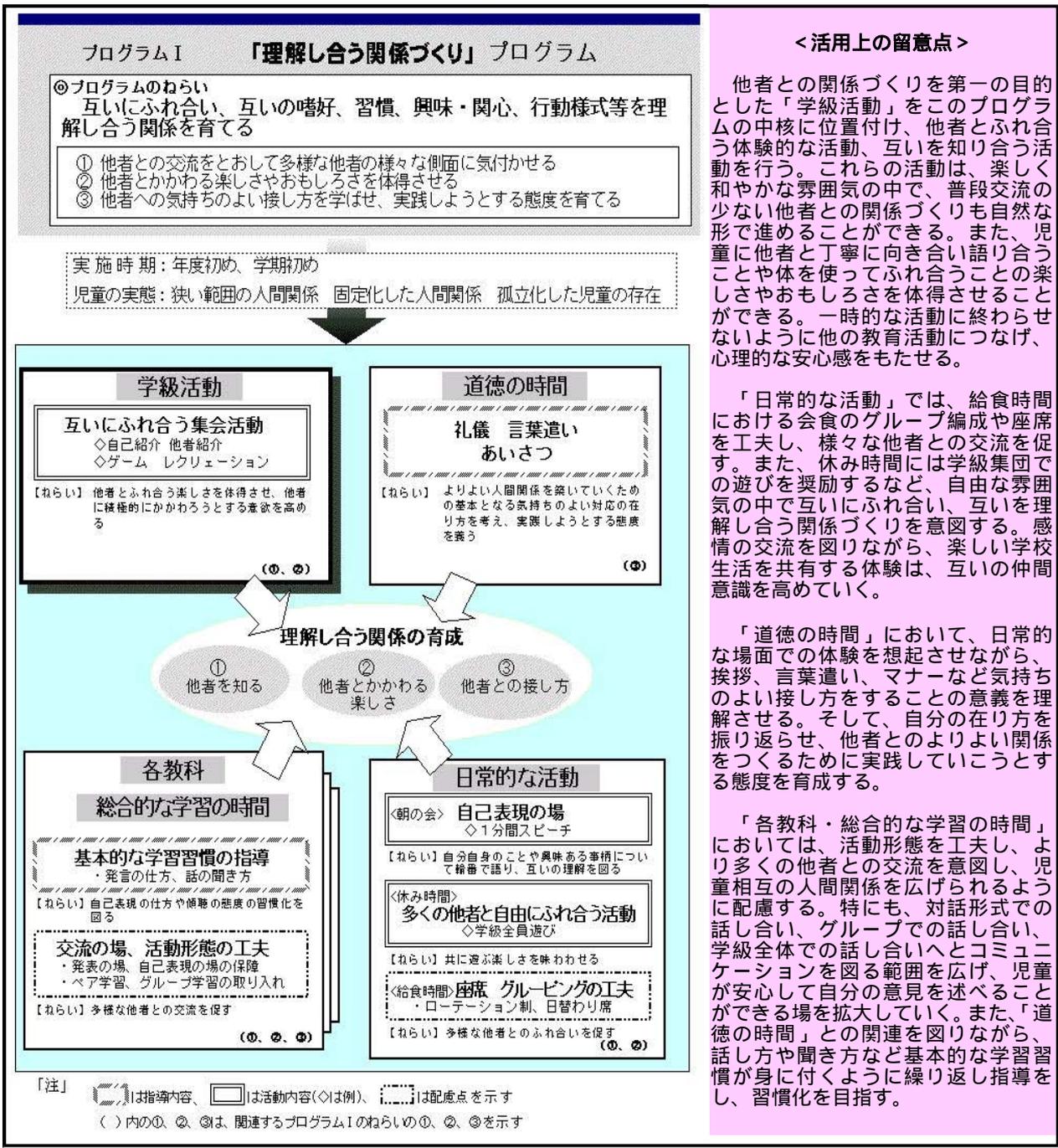
- (ア) 作成の方針
  - 全学年に共通して活用できる学級経営プログラムを作成する。
  - 一年間の学級経営を想定した学級経営プログラムを作成する。
  - 学級経営プログラムとして、プログラム「理解し合う関係づくり」、プログラム「認め合う関係づくり」、プログラム「協力し合う関係づくり」、プログラム「尊重し合う関係づくり」の四つのプログラムを作成する。
- (イ) 作成の手順
  - プログラム～における指導のねらいを具体化する。
  - 各教育活動の特質を踏まえ、プログラム～の指導のねらいにかかわる各教育活動の指導内容、活動内容、配慮点を洗い出す。
  - プログラム～において中核となる教育活動と関連する教育活動を位置付ける。
  - プログラム～の活用上の留意点を検討する。

(4) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの実際

(3)で述べた作成の視点にしたがい、学級経営プログラムとして、プログラム ～ を作成した。ここでは、作成した学級経営プログラムのうち、プログラム 「理解し合う関係づくり」を抜粋して、【図3】に示す。

このプログラムは、年度初めの早い段階で実施することを想定している。学級編成替えが行われた直後は、前年度まで同じ学級であった児童同士が集まり、狭い範囲での人間関係を形成している場合が多い。学級編成替えが行われない場合であっても、前年度からの人間関係が引き続き、人間関係の固定化の傾向や集団から孤立化している児童の存在も予想される。こうしたことを踏まえ、このプログラムは、児童相互の新たな人間関係づくりや人間関係の広がりを促していくものである。

児童が他者と関係を結び、互いに理解し合う関係を育てるためには、様々な教育活動において、社会的接触や交流をする場や機会を用意し、他者の習慣、嗜好、興味・関心、態度、行動様式等の理解を促す必要がある。また、同時に他者の話を傾聴する態度や他者への気持ちのよいかかわり方を身に付けさせる指導も必要である。このような指導を同時期に行うことによって、児童は安心して他者とふれ合い、本音で語り合い、他者とかかわる楽しさや喜びを感得することができると思う。



【図3】 プログラム 「理解し合う関係づくり」

## 2 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの活用

### (1) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営は、以下に示す四つの段階で進めていくことにする。

- ア 年間構想の立案
- イ 指導計画の作成
- ウ 実施
- エ 評価と改善

【図4】は、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方の段階と手順である。

### (2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方の手順及び留意点

以下、上記の四つの段階で行うことについて述べる。

#### ア 年間構想の立案

年間構想の立案の段階では、「どのような人間関係」を目指し、「どの時期に」「学級経営プログラムのどのプログラムを活用するのか」を下記(ア)から(オ)により明確にする。したがって、児童の人間関係の育ちを踏まえ、(ア)と(イ)を行い、学級経営プログラムに示したプログラム ~ のどのプログラムまでを活用するのかを決めてから、(ウ)(エ)(オ)の作業に進む。

(ア) 学級経営目標から育てたい児童相互の人間関係の明確化を図り、学級経営方針を検討する。

(イ) 目標達成の手だてとして活用する学級経営プログラムを選定する。

(ウ) 活用する時期や期間を検討し、決定する。

(エ) 必要に応じて「学級活動」「道徳の時間」の年間単元配列を調整する。

(オ) プログラム ~ で扱う「教科・総合的な学習の時間」の単元名を検討する。

#### イ 指導計画の作成

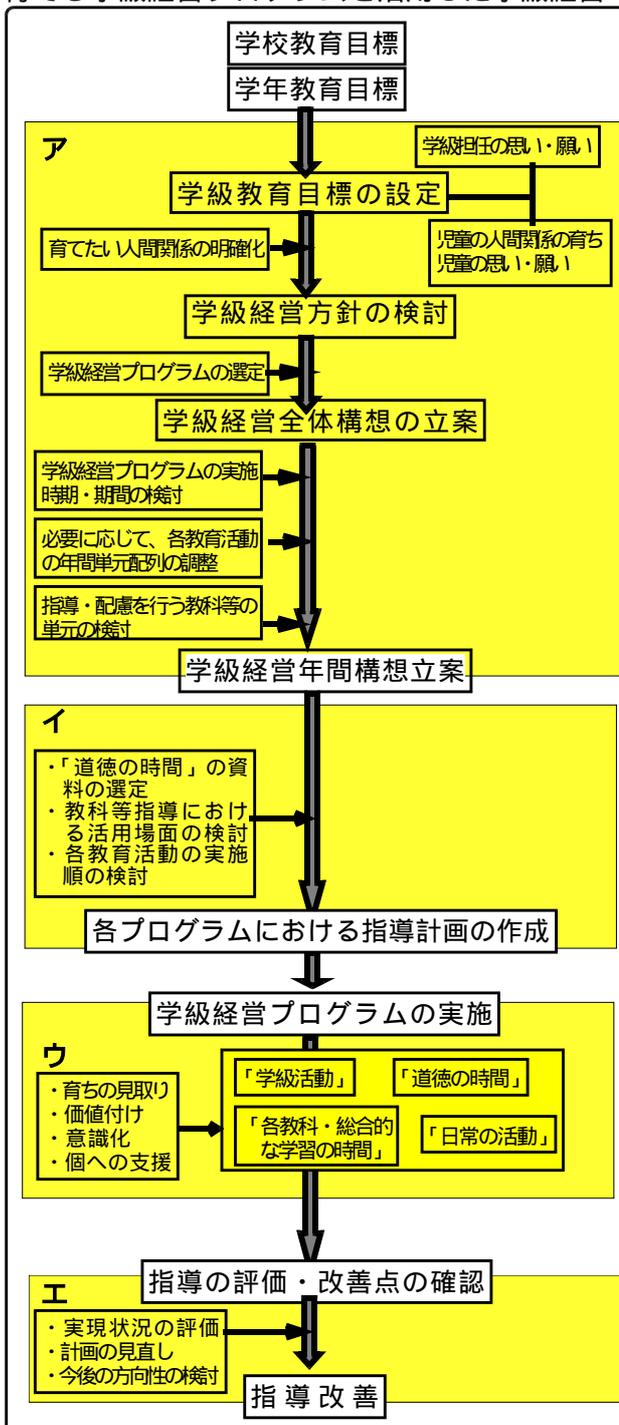
指導計画の作成の段階においては、学級経営プログラムのプログラム ~ に示した各教育活動についての指導内容、活動内容、配慮点を具体化する。作成に当たっては、以下の点に留意する。

(ア) プログラム ~ に示した「活用上の留意点」を参考に指導計画を作成する。

(イ) 「道徳の時間」において扱う資料を検討し、指導計画を作成する。

(ウ) 「各教科・総合的な学習の時間」については、単元のどのような学習場面で指導・配慮が可能なのかを検討し、指導計画を作成する。

(エ) 教育活動間の関連を考慮し、各教育活動の実施順、実施時期を検討する。



【図4】学級経営プログラムを活用した児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の進め方

## ウ 実施

実施の段階においては、それぞれのプログラムを活用した指導計画に基づき、各教育活動における指導実践を行う。実施に際しては、以下の点に留意する。

- (ア) プログラムにおける各教育活動の果たす役割や教育活動間の関連を踏まえ、指導・配慮の充実を図る。
- (イ) 他の教育活動や日常の場面で見られた児童の人間関係の育ちを積極的に取り上げ、価値付け、全体へ広げる。
- (ウ) 指導実践期間中、他者とのかかわりを児童のめあてとして設定するなど、児童一人一人に意識化させる。
- (エ) 特に指導・配慮が必要な児童への支援を講じていく。

## エ 評価と改善

学級経営プログラムを活用した各教育活動の指導・配慮の実施期間中あるいは実施後に、指導の効果と改善点を検討し、その後の指導に生かすために次のことを行う。

- (ア) 学級経営プログラムのねらい及び各教育活動に示されたねらいに照らし、児童の意識の変容状況や人間関係の育成状況を把握する。
- (イ) 各教育活動の指導・配慮を見直し、改善点を明確にする。
- (ウ) 改善点に基づき、今後の指導・配慮の方向性を検討する。

## 3 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した指導実践とその分析・考察

### (1) 指導実践

指導実践は、花巻市立湯口小学校4年2組（男子13名 女子9名 計22名）の学級を対象として、4月上旬から11月初旬にかけて学級経営プログラムを活用した指導実践を行った。

### (2) 指導実践の目的

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想に基づき、「年間を見通した段階的な指導」及び「教育活動全体による組織的な指導」の視点に沿って作成した学級経営プログラムの妥当性について指導実践をとおして明らかにする。

### (3) 指導実践の計画

#### ア 計画

指導実践から学級経営プログラムの改善・修正に至るまでの計画は、【表3】に示すとおりである。

#### イ 実践結果の分析の内容と方法

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想に基づいて作成した学級経営プログラムを活用した指導実践後に、次の【表4】に示した内容及び【表5】に示した設問内容により分析と考察を行う。

【表3】指導実践計画

実践時期・対象	指導実践の流れ
< 実践期間 > 平成16年4月8日	・対象学級の学年段階、児童の実態に応じて、活用する学級経営プログラム及び実践時期を検討する
↓	
平成16年11月5日	・学級経営プログラムを活用した指導実践計画を作成する。
↓	
< 対象 > 花巻市立湯口小学校 第4学年1学級児童22名	・学級担任による指導実践 ↓ ・学級経営プログラムの修正・改善

【表4】分析の内容と方法

調査項目	対象	調査内容	調査方法	処理・解釈の方法
学級経営プログラム全体の妥当性	教師	児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上で役立つ点 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上での改善・修正点	設問1～2の自由記述	指導実践後に調査し、分析・考察をする
学級経営プログラムの四つのプログラムの妥当性	教師	それぞれの学級経営プログラムが役立つ点 それぞれの学級経営プログラムの改善・修正点	設問3～10の自由記述	指導実践後に調査し、分析・考察をする
児童相互の人間関係の変容	教師	教師がとらえた児童相互の人間関係の変容	設問11の自由記述	指導実践後に調査し、分析・考察をする
	児童	児童の人間関係の変容や児童の意識の変容	指導実践における発言、感想、作文等の記述	指導実践の記録を分析・考察をする

【表5】設問内容

1 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上で、この学級経営プログラムが役に立つと思われる点
2 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上で、この学級経営プログラムについて、改善・修正を加えた方がよいと思われる点
3 児童相互の「理解し合う関係づくり」を進める上で、このプログラム が役立つと思われる点
4 児童相互の「理解し合う関係づくり」を進める上で、このプログラム について修正・改善を加えた方がよいと思われる点
5 児童相互の「認め合う関係づくり」を進める上で、このプログラム が役立つと思われる点
6 児童相互の「認め合う関係づくり」を進める上で、このプログラム について修正・改善を加え方がよいと思われる点
7 児童相互の「協力し合う関係づくり」を進める上で、このプログラム が役立つと思われる点
8 児童相互の「協力し合う関係づくり」を進める上で、このプログラム について修正・改善を加えた方がよいと思われる点
9 児童相互の「尊重し合う関係づくり」を進める上で、このプログラム が役立つと思われる点
10 児童相互の「尊重し合う関係づくり」を進める上で、このプログラム について修正・改善を加えた方がよいと思われる点
11 児童相互の人間関係についての変容
12 その他

#### (4) 指導実践の概要

##### ア 年間指導構想の立案

##### (ア) 対象学級のプロフィール

指導実践の対象学級は4年生二学級のうちの二学級（男子13名、女子9名、計22名）である。3学年進級時に学級編成替えがあり、現在に至っている。学級担任は、3学年2学期から受けもち、4年生進級後も継続してもちあがっている。児童は、全体的に明るく、素直であり、学級生活のルールも比較的守り、落ち着いた生活ぶりである。学級内の児童間の交友関係は固定化されつつあり、特に女子にその傾向が見られる。休み時間になると外で仲よく遊ぶ姿も見られるが、些細な口論からトラブルになることがある。また、はっきりと自己主張ができず友達とうまくかかわれないことで孤立している児童や、口調が乱暴で相手を傷つけてしまう児童が数名見られる。

##### (イ) 学級経営の方針と活用する学級経営プログラムの選定

学級担任は、学校教育目標及び学年教育目標を踏まえるとともに、学級の児童の実態から、「友達の立場がわかる子」を学級教育目標の一つの柱として設定し、「相手の喜びや悲しみを感じ取り、一人一人がかげがえのない存在であることを分かり合い、共に助け合い支え合う学級づくり」を学級経営の方針に据えた。この学級経営の方針から、活用する学級経営プログラムを、プログラム「理解し合う関係づくり」、プログラム「認め合う関係づくり」、プログラム「協力し合う関係づくり」、プログラム「尊重し合う関係づくり」の四つとし、順次指導実践を進めることとした。

##### (ウ) 学級経営年間構想案の実際

学級経営プログラムの四つのプログラムの実践時期は、学級経営プログラムに示した実践時期をベースにしながらも、学校行事や学年行事等を考慮して決定した。また、「学級活動」

における活動内容と「道徳の時間」における指導内容については、指導実践校の「道徳の時間の年間指導計画」「学級指導年間指導計画」を基本に、四つのプログラムに示した内容への組み替えや調整を行った。【表6】は、指導実践学級における学級経営年間構想案である。

【表6】児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営年間指導構想案

月	4	5	6	7	8	9	10	11
学級経営の重点	互いに理解し合う関係づくりを目指す		互いに認め合う関係づくりを目指す		互いに協力し合う関係づくりを目指す			互いに尊重し合う関係づくりを目指す
活用する学級経営プログラム	プログラム		プログラム		プログラム			プログラム
学級活動	組織作り ゲーム集会 係活動計画 自転車乗り方 運動会を成 功させよう 身体の清潔 体験活動	運動会を成 功させよう 身体の清潔 体験活動	運動会反省 虫歯の予防 廊下歩行 古代村係分担任 話し合い	夏休み計画 お楽しみ会 をしよう 一学期	夏休み反省 組織作り マラソンのた のしみ	発表会を成 功させよう 発表会を成 功させよう	どう言うの 目の健康 郷土愛	本の紹介 生命尊重 思慮 反省
道徳の時間	礼儀 挨拶 家族愛	節度 節制 思いやり	信頼 友情 勤勉 努力 敬虔 公徳心	信頼 友情 愛校心 自然愛	敬虔 愛国心	節度 節制 尊敬 感謝	信頼 友情 勇気 郷土愛	生命尊重 思慮 反省
各教科総合的な学習の時間	<国語 社会 理科> ペア学習の取り入れ 基本的学習習慣の定着		<図画工作> 自己評価、相互評価の 取り入れ		<総合的な学習の時間 音楽> グループ学習の取り入れ			<国語> 学び合い学習 の取り入れ
日常的な活動	<朝、帰りの会> BS42放送をしよう <給食時間> わくわくランチタイム		<帰りの会> 今日のキラリ（みんな のよさを見つけよう）		<帰りの会> 係活動を振り返る活 動			<帰りの会> お悩み相談活動
学校・学年行事等	始業式 入学式 交通安全教室 身体測定 1年生を迎える会 家庭訪問	児童会総会 運動会 知能検査	ボランティア活動 鑑賞教室 授業研究会	古代村体験学習 終業式 お別れ会	始業式 夏休み作品展 ボランティア活動 ゲーム大会	祖父母参観日 児童会認証式 陸上壮行式 全好ると学習	学習定着度調査 校内マラソン大会 音楽発表会 学習発表会	

「注」教育活動欄の網掛け箇所は、学級経営プログラムとして実施した内容

イ 学級経営プログラム活用計画及び各教育活動の指導計画の作成

上記の学級経営年間構想を踏まえ、指導実践する四つのプログラム毎に四つの教育活動の「主題名・活動名・単元名」「指導・配慮の主な内容」「ねらい」を明確にし、それぞれの教育活動の「実践時期・期間」「他の教育活動との関連」について検討し、具体化した活用計画を作成した。さらに、それぞれの教育活動における指導・配慮の展開について、指導計画を作成した。

ウ プログラム「理解し合う関係づくり」を活用した指導実践

4頁【図3】に示したプログラムを活用した指導計画案を作成（詳細は別冊資料『学級経営プログラム』参照）し、その指導計画に基づき指導実践を行った。また、各教育活動における指導実践の時期と指導順序は【表7】に示したとおりである。次頁【資料1】は、指導実践の概要を示したものである。

【表7】プログラム「理解し合う関係づくり」における各教育活動の指導実践時期

月	4月				5月
教育活動	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週
学級活動		「ゲーム集会をしよう」			
道徳の時間	まごころをもって、春の星				
各教科総合的な学習の時間		話し方・聞き方の習慣化を図る指導	社会（校内施設探索）	算数（ペアで丸付け）	国語（音読ペア学習）
理科（春探し）					
帰りの会「一分間スピーチ」					
ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ

エ プログラム「認め合う関係づくり」

プログラム「協力し合う関係づくり」、プログラム「尊重し合う関係づくり」を活用した指導実践

指導実践の概要を、10頁【資料2】に示す。

# プログラム 理解し合う関係づくり

## 学級活動の授業の概要

活動名	ねらい
ゲーム集会をしよう	他者とふれ合う楽しさを体得させ、他者と積極的にかかわろうとする意欲を高める

### 授業の様子

1 **あいこになるように相手を見てジャンケンする**

T 1分間以内になるだけ多くの人とあいこになるようにジャンケンをしてみましょう。「親しき中にも礼儀あり」ですから、挨拶もします。



T 気が付いたことは？  
C さっきより難しかった  
C 息を合わせてやったらできました  
C あいこになったらうれしかったです

2 **集まった4人のグループでジャンケントーキングをする**

今一番ほしい物は、ピアノかな。



ぼくは、チワワです。

T 気が付いたことがありますか？  
C みんなが同じことを言って、ほくだけちがうことがおもしろかったです。  
C T男さんが大きくなったら、ドラえもんになりたいといったので大ばくしょうになりました。T男さんがこんなことを思っているなんてびっくりしました

3 **振り返りをする**

T 今日の学習はどうでしたか？  
C とっても楽しかった。またやりたいです  
C 続きをしたいです  
C グループを組めなかった人とも話しをしてみたいです  
T これからの1年間、たくさんの人いろいろな面を知って、クラスの人ともっと仲よくなっていきましょう。今日は班とは違う人とグループを作って、一緒に給食を食べながら続きの話しをしてみましょう。  
C 賛成です

あんまり話したりしない人と話して楽しかったです。ジャンケンしたり、話したりして相手のことがよくわかりました。とても楽しかったです。またやりたいです。

みんなのいるんなことがわかってうれしかったです。みんなの言うことが意外だったりもするって感じるのが楽しかったです。もっとみんなのことが知りたいです。

### 学習の場での交流

## 各教科 総合的な学習の時間の様子

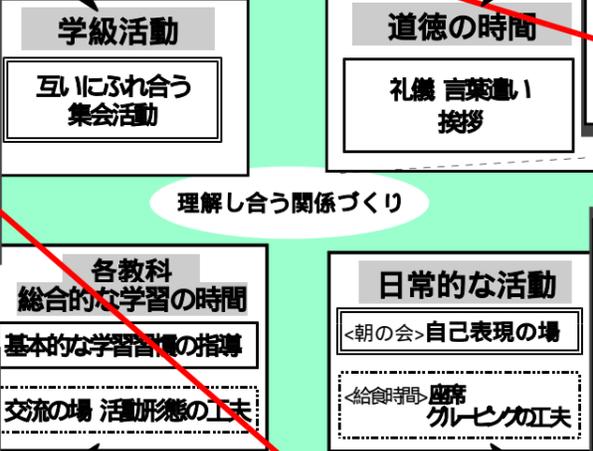
配慮点	ねらい
ペア学習の取り入れ	多様な他者との交流を促し、人間関係を広げる <国語、算数、理科、社会>



今度はぼくが読むね。

お願いします。

指導内容	ねらい
発表の態度 ・みんなの方を見る ・大きな声で聞く態度 ・発表者に注目して ・うなずいて	自信をもって発表する態度、発表をしっかりと聞く態度の定着を図る

他者と気持ちよいかかわりをする上で必要な挨拶・礼儀についての学習を想起させ、実践する場を保障する

日常的な交流の場を設定し、様々な他者の新たな面を知り、ふれ合う楽しさを味わわせる

発表の仕方、聞き方を想起させながらそれらを生かして、スピーチに取り組みさせる

## 道徳の時間の授業の様子

主題名	資料名	ねらい
まごころをもって2-(1)	「春の星」(学研)	挨拶や、礼儀の大切さに気付き、誰に対しても、気持ちのよい接し方をしようとする気持ちを育む

### 授業の様子

役割演技による価値の追求

T 「お先に」と言った時の「わたし」の気持ちは。  
C 言ってみてかかった  
C 体のどこかがずきりした  
C 次のお客さんのために  
T 次に待っていた人がおじぎしてくれましたね。どんな気持ちになったんだろう  
C 「ありがとう」という気持ち  
C いい人だなあ  
C 「お先に」と言ってよかったなあ



価値の一般化

T みんなの生活の中で、挨拶してよかったことはありませんか。  
C 帰りの途中で、歩いていた時、「さようなら」と言ったら、おじぎしてくれた  
C 近所の人に「おはようございます」と言ったら、「今日もがんばってね」と言われて、とってもうれしかった

終末

T みなさんにこの言葉を言います。「親しき中にも礼儀あり」仲のよい人でも挨拶をしなかったり、乱暴なことを言ったりすると、仲よしくなくなってしまふ、挨拶や礼儀はとっても大切だという意味です。みんなの親しい人、友達とか家族とかの間でも、この言葉を思い出してください。

春の里というお話は、心がすっきりしました。わたしも、学校から帰る途中、道路工事の人に「こんにちは」と言ったら、にっこり笑って、道案内をしてくれました。こんなちゃんのことでも人はうれしくなるってすばらしいと思いました。

今日の道徳の時間に、いい言葉を教えてもらったのでよかったです。その言葉は、「親しき中にも礼儀あり」と言う言葉です。わたしは、「おねえちゃんや友達に礼儀なんてやっていなかったなあ」と思いました。「ありがとう」としか言ってなかったで、これからは、もっと言うようにしたいです。

## 日常的な活動の様子

給食時間の取り組み

活動名	ねらい
わくわくランチ(全3回)	様々なグループ編成をして、自由な雰囲気の中で、児童相互のふれ合いや交流を促す



ぼくの兄ちゃん、超こわいんだよ

えっ、Kくん、お兄ちゃん、いたの？

初めてなった人と給食を食べながら、いろいろな話をしました。その中でも一番話したのは、「世界まるみえ」というテレビの話でした。とても楽しかったです。またやりたいです。

帰りの会の取り組み

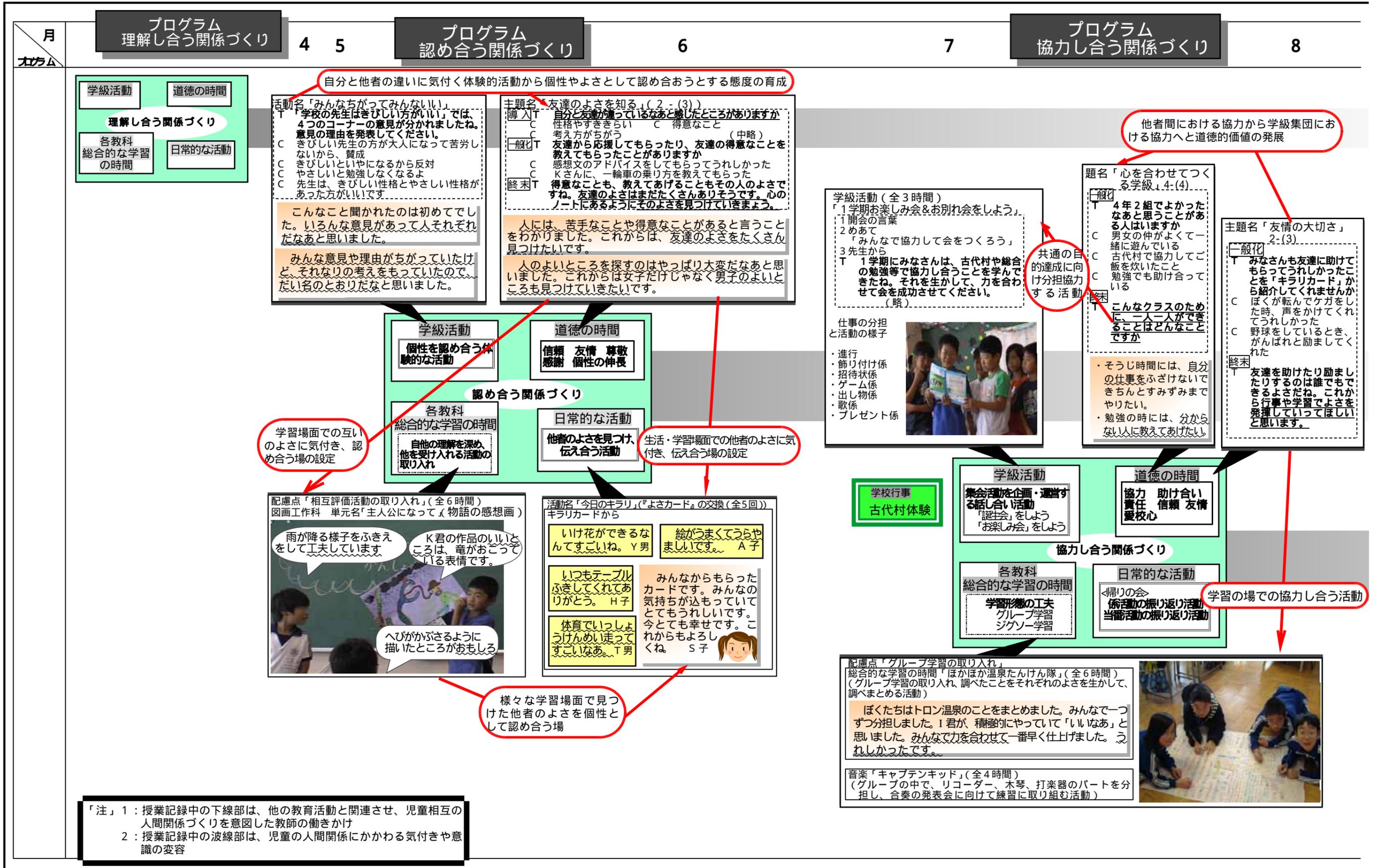
活動名	ねらい
1分間スピーチ(全44回)	双方向なコミュニケーションを図り、児童相互の理解を深める

A子(スピーチ内容)  
今日は剣道を習いに行く日です。湯川公民館へ行ってみると、(中略)いたいと思っただけど、悔しい気持ちが大きかったです。大きな声を出して、自分の泣き虫のところを直していきたいです。

A子さんへ(感想カード)  
剣道を始めたんだねー。初めて知ったよ。剣道をがんばってね。ぼくも、今度の発表を大きな声でがんばってすよ。(H男)

H男くんへ(返信)  
H男くんもがんばれー!!  
ファイト!!! (A子)

「注」1 授業記録中の下線部は、他の教育活動と関連させ、児童相互の人間関係づくりを意図した教師の働きかけ  
2 授業記録及び感想記録中の波線部は、児童の人間関係にかかわる気付きや意識の変容



他者との葛藤が生じる場面での判断力の育成から、実際の行動の仕方を学ぶ学習へ

活動名「こんな時、どう言うの?」(気持ちの伝え方)

T 人には貸したくない物を貸してと言われたら、どう言ったらいいか実際に言ってみましょう

C こめんね。これはわたしの宝物なの、だから、貸すことはできないの

T この言い方はどうですか

C 自分の気持ちをきちんと言っている

C 相手の気持ちを考えてやさしく言っている

T 言われた方はどんな気持ちになりましたか

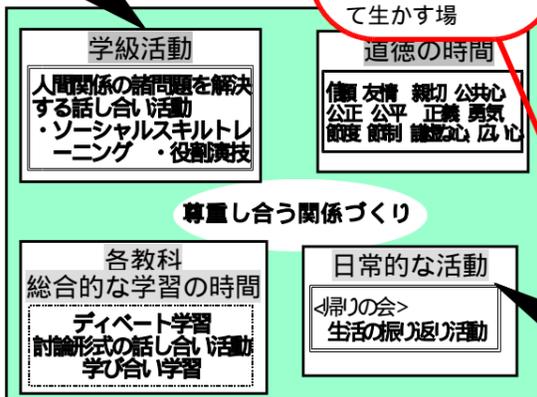
C 「うん、わかった」って、思った

T 今日は、自分の気持ちを言葉にしてきちんと伝えること、そして相手の気持ちも考えた言葉の違いや言い方を考えて言うことを学習しましたね

わたしは、自分の思ったことを言っていました。が、相手がきずつかないように言えば、相手もわかってくれるんだなあということがわかりました。

いろいろな言い方を実際にやってみて、言われた方の気持ちもわかりました。相手と自分もきずつかない言い方がよくわかりました。

相手の気持ちを思った対応を在り方を実際のトラブルにおいて生かす場



主題名「友達への注意」2-(3)

【価値の追求】

T 教えてあげた方がいいのは、どうしてかな

C 友達だからわかってくれる

C まさこさんが同じまちがいをしてしまう

C ぼくだったら、教えてもらった方がうれしい (中略)

【終末】

T 友達に言いにくいことを言うことは難しいことです。けれど、相手のことを思い、どうすることが一番いいのか考えることができればいいですね。

これから友達を大切に、分かり合える友達でいたい。まちがうことはだれにでもあるから、ちゃんと教えてあげたいです。

わたしはこうした場合どうしたらいいか深く考えました。そして、ちゃんとしたことを教えた方がいいと思いました。こういうことはあるかもしれません。その時は、きちんと注意します。

実際の葛藤場面

活動名「お悩み相談」(帰りの会)  
(友達とのトラブルの解決相談)

C1 (司会) 悩みがある人はいますか

C2 はい、Mちゃんが、「ちゃんがかわいこぶってるよね」と話してくるので困っています

C1 (司会) 解決するにはどうしますが、意見を言ってください

C3 仕返す

C1 それは止めた方がいいと思う

C2 止めた方がいいって言うてるんだけど

C4 訳を聞いてみたら、どうしてかって

C5 まず、Mちゃんとそのことをもう一度話し合ったらいいと思う



(5) 指導実践の分析と考察

ア 学級経営プログラムの妥当性にかかわる研究協力校学級担任等の記述分析

【表8】から【表9】は、学級担任教師等の指導実践後の感想についてまとめたものである。

【表8】学級経営プログラム全体の妥当性にかかわる記述

トラブルが起きてからの指導ではなく、目指す学級像に近づける経営を意図的、積極的に進めることができる。年間を見直し、計画的、定期的に児童相互の人間関係の観点から学級経営を見直し、児童に揺さぶりをかけることがとてもよい。人間関係づくりを意識して、様々な学習や活動を結び付け、組み立てることは、点になりがちな指導を線にし、面をつくり、さらに長期的な指導によって、立体的な厚みのある指導ができると思う。プログラムは指導の指針となり、図で示されているのでわかりやすかった。教師と子供たちの目指す学級像とのかかわりから、どのように活用していくのかがわかりにくい。学級の実態に応じて、工夫して活用できそうである。どのような活用ができるのか、バリエーションが示されると参考になる。プログラムのねらいと各教育活動との関連や、教育活動間の関連がわかりにくい。学級活動や日常的な活動は、その内容や進め方が例示されると、指導計画を作成する上で役立つと思う。

「注」 は、役立つと思われる点 は改善・修正を加えた方がよいと思われる点

【表9】学級経営プログラムの四つのプログラムそれぞれの妥当性にかかわる記述

プログラム 「理解し合う関係づくり」	プログラム 「認め合う関係づくり」	プログラム 「協力し合う関係づくり」	プログラム 「尊重し合う関係づくり」
もちあがりの学級でも、友達の新たな面に気付かせることができる。また、転入生がある場合も役立つと思う。年度当初に行うことで緊張感をほぐし、学級意識や所属感を感じさせ有効である。以後のよりよい人間関係へと発展が期待できる。道徳の時間と学級活動の関連が示され、わかりやすかった。1分間スピーチやわくわくランチは、普段どんなことを考えているかを分かり合うことができた。クラス替えのあった学級の場合には、一部省略する、アレンジするなど活用のバリエーションが示されるとよい。	プログラムでの活動において、友達の様々な面を知ることが、プログラムでの友達の個性やよさを見つける活動に役立った。学級活動で他者の違いや個性に目を向け、間をおかず、道徳において、友達のよさを認め合うことの価値について学んだことは、子供の意識がつながり、効果的である。クラス全員のよさを見つけた日常的な活動は、多くの時間を要した。クラスの人数が多い場合の工夫が必要。教師自身が児童一人一人を見取り、計画的意図的に評価していくことが大切であることを付記するとよい。	道徳の時間で学習した「助け合おうとする態度」を、実践できる場が各教科や学級活動に用意され、効率的重点的に指導するのに役立った。子供たちにとってもわかりやすかった。行事との関連をもたせた点が効果的である。実践では、一学期に行ったが、学校行事との関連から、実施時期はプログラムに示されたとおり二学期が妥当である。実際には道徳の時間を「信頼・友情」「愛校心」の2時間行った。また、複数の内容項目の扱いも可能であることがわかるような表示にした方がよい。	道徳において、友達への注意が大切であることをとらえさせ、実際のかかわり方を学級活動において学ばせる関連はスムーズで、子供たちの意識の上で自然であった。学級活動で扱うロールプレイやソーシャルスキルは、児童の実態に即した指導ができるし、児童も楽しみながら学習できた。道徳の時間で高まった友情に関する価値観が、日常のトラブルを解決しようとする意欲に結び付いたと思う。教科の学習では、問題解決型の学習において効果的であると思う。

「注」は表8に同じ

これらの記述からわかることは、次のとおりである。

- ・学級経営プログラムは、人間関係のトラブルを解決する指導から、人間関係を意図的、積極的に育てる指導へと転換させ、目指す学級像へ近づける経営を進めることができること。
- ・年間を見通して活用することで、児童相互の人間関係を育てるといった観点から学級経営を見直し、計画的定期的に児童への指導を進めることができること。
- ・各教育活動の関連を図った学級経営プログラムは、点になりがちな各教育活動における指導を結び付け、長期的、継続的な指導を可能とすること。
- ・学級経営プログラムの内容は、指導を進める上で指針となること。
- ・プログラム は、年度初めの緊張感をほぐし、互いの考えを知り合わせ、友達の新たな面に気付かせることで、学級意識を感じさせることができること。また、次のプログラム のよさの認め合いの活動につながる。
- ・プログラム は、自他の違いの理解から、違いをよさとして認め合う態度の育成、そして、よさを見つけ合う活動が間をおかず連続させることができ、効果的な指導ができること。
- ・プログラム は、「道徳の時間」でとらえた道徳的価値について実践化を図る場として「各教科・総合的な学習の時間」、「学級活動」が位置付けられ、重点的な指導に役立つこと。
- ・プログラム は、「道徳の時間」で道徳的価値を理解し、具体的な行動の在り方を「学級活動」で学び、日常生活へ生かすといった関連がスムーズで、児童にとっては自然であること。
- ・児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進めるためには、目指す学級像と学級の児童の育ちを踏まえて、学級経営プログラムをどのように活用していくのかという活用の仕方といった観点から、学級経営プログラムを見直す必要があること。また、それぞれのプログラムにおける各教育活動のねらいや教育活動間の関連等実施上の留意点について、内容の改善及び示し方の工夫をするとともに、参考となる指導計画例を提示する必要があること。

イ 児童相互の人間関係及び児童の意識の変容にかかわる研究協力校学級担任等の記述分析と児童の記録分析

【表10】は、学級担任教師等の指導実践後の感想についてまとめたものである。また、指導実践における児童の感想や発言の状況については、【資料1】及び【資料2】にその一部を示した。

【表11】は、指導実践後に、児童が記述した作文の抜粋である。

【表10】児童相互の人間関係及び児童の意識の変容にかかわる記述

プログラム 「理解し合う関係づくり」	プログラム 「認め合う関係づくり」	プログラム 「協力し合う関係づくり」	プログラム 「尊重し合う関係づくり」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・話題が豊富になったことで、休み時間のおしゃべりや男女間の会話が多く見られるようになった</li> <li>・お互いの考えを知ることにより、自分の考えに自信をもって言えるようになった。特に、今まで発言の少なかった児童の発言が増えてきた。</li> <li>・授業中のプリントの受け渡しや集配時に「お願いします」「ありがとう」の挨拶を言い合う児童が増え、学級の雰囲気よくなった。</li> <li>・児童の中から、友達同士の失礼な呼び方は止めようという意見が出され、話し合いの契機になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習時間に、発言した友達のよさを認めようとする子供が多くなった。</li> <li>・普段友達との会話の少ない子が、学級活動を機に、休み時間に友達とおしゃべりに興じる姿が見られるようになった。</li> <li>・多様な面から自分のよさを全員から認められ、とても喜んでいました。この経験が大きな自信となり、学級での活動や友達のかかわりに積極的になった児童や、素直に自分の非を認めることができるようになった児童が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年行事では、分担の仕事以外でも助け合いながら、不満を口にする者もなく、炊事や後片付けに取り組んでいた。事後の作文には、多くの児童が協力して活動できた満足感を書いていた。</li> <li>・学年集会での出し物をグループ毎に取り組みたいという意見が多く出された。協力して物事を成し遂げることの楽しさを知ったことで、グループで力を合わせて何かしたいという意欲が出てきた。</li> <li>・最近では、男子のサッカー遊びに女子が入って遊ぶようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習場面において、間違いをおそれず、わからないことは分からないとはっきりと言える子供が増えてきている。</li> <li>・帰りの会で、互いの係活動や当番活動についての意見やアドバイスを率直に言い合うようになった。</li> <li>・相手を傷つける発言をした児童にすかさずたしなめる言葉を発した児童がいた。相手の気持ちを考え、嫌な思いをさせないという学級の雰囲気ができてきていると感じる。</li> <li>・友達との悩みを互いに共有し、アドバイスをしたり、解決へ向かおうとする態度が見られるようになった。</li> </ul>

【表11】児童の作文における記述の抜粋

<p>わくわくランチをしてたくさんの友達ができました。楽しくおしゃべりができて、いつも楽しみにしています。他にも自分のいいところを見つけてカードに書いてくれました。ぼくはバドミントンをやっているの、「バドミントンがんばってね」とか「大会がんばって」などのカードを読みました。自分でびっくりしたことは、3年生の時あまりしゃべらなかつたKさんと、4年生になってとてもたくさんしゃべっています。いつも朝、「ハリーポッター」の話をしています。ぼくの楽しみです。(I男)</p>
<p>3年生のころはあんまりしゃべらなかつたけど、今ではいっぱいしゃべるようになりました。外で遊ぶときは、男女関係なくサッカーや野球をしています。勉強の時は、教えてくれたりしていいなと思います。金魚のお世話も手伝ってくれます。チャボの世話当番でも、手伝ってくれる人が3人もいます。なんでこんなにみんなやさしいのかなあとと思います。こんな4年2組がいつまでも続くといいなあとと思います。(N男)</p>
<p>4年生になってから、I君やS君やK君や女の子たちが一緒にサッカーや野球をして遊んでいるので変わったなあとと思います。あと、去年よりみんなが男子女子関係なく遊んでいるのでいいなあとと思いました。けんかをしてもすぐ仲直りするところがまたいいなあとと思います。(S男)</p>

これらの記述や記録からわかることは以下のとおりである。

- ・プログラム では、児童間、特に男女間の交流が活発になり、児童の人間関係に広がりが見られると同時に、挨拶やお礼等気持ちよいかかわりをしようとする児童が増え、学級の雰囲気よくなったこと。
- ・プログラム では、他者の個性をよさとして受け入れ、認め合おうとする姿が見られるようになったこと。また、よさを認められたことが自信となり、友達に積極的にかかわるようになったり、素直に自分の非を認めることができるようになったり、これまでおとなしい児童がおしゃべりに興じるようになったりする等の育ちが見られたこと。
- ・プログラム では、協力して物事を成し遂げることの楽しさを知り、行事等で互いに進んで助け合って活動する姿が見られたようになったこと。また、グループでの活動に意欲をもつようになったこと。
- ・プログラム では、進んで自分の主張を率直に述べたり、相手の立場に立って互いにアドバイスし合ったりする等互いによりよい関係や楽しい学級生活を築こうとする学級の雰囲気が醸成されてきていること。

以上ア、イの分析結果から、学級経営プログラムは、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上で有効であることを確かめることができた。また、学級経営プログラムを、学級経営の方針や児童の実態に応じた活用の在り方及び手順といった観点から検討し、学級担任教師が学級経営プログラムを活用する上で指針となる「活用の手引き」及び活用の参考となる「活用例」「教

育活動間の関連例」「各教育活動の指導計画例」を付記することとした。また、それぞれのプログラムにおけるねらいと各教育活動との関連、各教育活動の活用上の留意点及び他の教育活動との関連について、見直し、表記の仕方について修正・改善を加えたいと考えた。

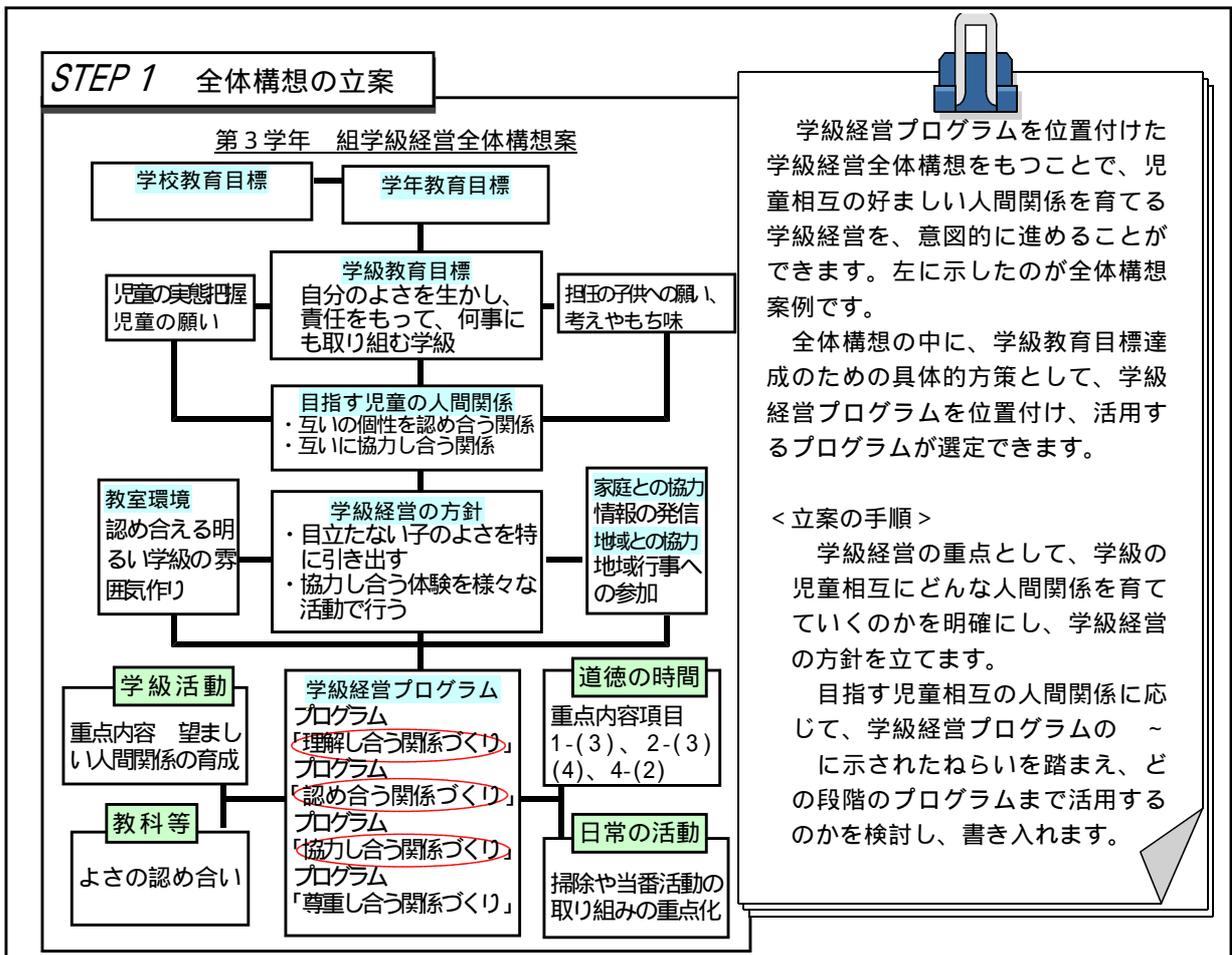
- (6) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正の視点  
指導実践の結果を基に、4頁に一部抜粋して示した学級経営プログラムを次のような視点から改善・修正し、学級経営プログラム(【別冊資料】『学級経営プログラム』)を提示することにした。

- (1) 学級経営プログラムの活用の手引きを付記すること  
 ア 学級経営の方針に応じた活用の手順の提示すること  
 イ 学級経営プログラムの活用例を提示すること  
 ウ 学級経営プログラムにおける教育活動間の関連例を示すこと  
 (2) 四つのプログラムにおける内容を見直し、表記を工夫すること  
 ア プログラムのねらいと教育活動との関連について見直し、表し方を改善・修正すること  
 イ 各教育活動の活用上の留意点を見直し、他の教育活動との関連を明記すること  
 (3) 学級経営プログラムを活用した指導計画案を例示すること

- 4 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正  
学級経営プログラムの改善・修正の視点に沿って、作成した箇所を以下に例示する。

- (1) 学級経営プログラムの活用の手引きの作成と付記  
学級経営プログラムを学級経営にどのように位置付け、活用していくのかについての計画、実施、評価の段階毎に手順や留意点、活用例、教育活動間の関連例についてまとめ、活用の手引きとして提示することにした。以下ア～イはその抜粋である。  
 ア 学級経営の方針に応じた活用の手順の提示  
 学級経営の方針からプログラムを選定する手順について【資料3】のように、図式化して示した。

【資料3】学級経営プログラムの活用の手順の提示(『学級経営プログラム』「第2章」より抜粋)





(2) プログラム ~ の見直しと表記の工夫

プログラム ~ のそれぞれを、以下のア、イで示す内容について改善・修正をした。

ア プログラムのねらいと教育活動との関連の見直しと表記の改善・修正

それぞれのプログラムにおいて具体化した三つのねらいと各教育活動のねらいとのかかわりを整理し、三つの具体化したねらいの達成に特に重要な教育活動が一目でわかるように【資料6】のように表に示すことにした。

【資料6】学級経営プログラムにおけるねらいの具体化と各教育活動との関連についての表記例  
 (『学級経営プログラム』「第3章」プログラム より抜粋)

プログラム1のねらいと教育活動のかかわり		学級活動	道徳の時間	各教科等	日常的活動
<b>&lt;ねらい&gt; 互いにふれ合い、互いの嗜好、習慣、興味・関心、行動様式等を理解し合う関係を育てる</b>					
具 体 化	他者と交流をとおして多様な他者の様々な側面に気付かせる				
	他者とかがわる楽しさやおもしろさを体得させる				
	他者への気持ちのよい接し方を学ばせ、実践しようとする態度を育てる				

イ 各教育活動の活用上の留意点の見直しと他の教育活動との関連の明記

各教育活動の実施上の留意点と他の教育活動との関連が混在した活用上の留意点を見直すとともに整理し、【資料7】のように分けて簡潔に表示することにした。

【資料7】学級プログラムにおける各教育活動の活用上の留意点と他の教育活動との関連についての表記例  
 (『学級経営プログラム』「第3章」プログラム より抜粋)

活用上の留意点		留意点	他の教育活動との関連
学 級 活 動	学級活動	・どの児童もすぐに参加でき、児童同士が直接ふれ合い、体全体で楽しめる体験的な活動を行う	一時的な体験に終わらせないように「日常の活動」につなげ、明るく楽しい学級の生活への期待をもたせる
		・互いに自分の嗜好や趣味等を紹介し合わせる等して、これまで気付かなかった他者の面に気付かせる	
		・他者と向き合い互いに語り合うことの楽しさやおもしろさを体得させる	
		・自然な形で他者との関係づくりが進められるよう和やかな雰囲気心がける	
道 徳	道徳	・礼儀や挨拶、マナーは、他者との人間関係をよりよくしていくことにつながることを内面的に自覚させる	「日常生活・学習場面」での実践を意欲付け、基本的な行動様式として定着化を図る
		・普段の自分の在り方を振り返らせ、実践していこうとする態度を育成する	
教 科 等	教科等	・より多くの他者と学習ができるように、ペアを定期的に組み替える	「道徳の時間」と関連付け、話し方や聞き方などが身に付くように繰り返し指導する
		・ペアから、小グループへ、さらに学級全体へとコミュニケーションを図る場の範囲を徐々に拡大し、安心して自分を述べられるよう配慮する	
日 常 活 動	日常活動	・様々な機会と場をとらえ、様々な他者との交流を促す	「学級活動」における体験的な活動と関連させ、交流の日常化を図る
		・楽しく自由な雰囲気の中で互いにふれ合ったり、感情を共有し合ったりする体験をとおして、仲間意識を高めていく	

(3) 学級経営プログラムを活用した指導計画案の例示

学級経営プログラムの活用を計画、実施する上で参考となる指導計画例を提示することにした。そこで、指導実践において作成した【資料8】に示すような活用計画案と【資料9】に示すような主な教育活動の指導計画案をプログラム ~ に例示することにした。

【資料8】学級経営プログラムの活用計画例（『学級経営プログラム』「第3章」プログラムより抜粋）

### プログラム 「理解し合う関係づくり」 活用計画案

1 ねらい

互いにふれ合い、互いの嗜好、習慣、興味・関心、行動様式等を理解し合う関係を育てる  
 他者と交流をとおして多様な他者の様々な側面に気付かせる  
 他者とかかわる楽しさやおもしろさを体得させる  
 他者への気持ちのよい接し方を学ばせ、実践しようとする態度を育てる

2 実施期間 4月第1週～5月第2週

4月第1週	第2週	第3週	第4週	5月第1週	第2週
道徳の時間	学級活動	日常的な活動			
各教科・総合的な学習の時間					

3 各教育活動の概要と関連

【資料9】各教育活動の指導計画例（『学級経営プログラム』「第3章」プログラムより抜粋）

### 「学級活動」指導計画案

1 活動名 「ゲーム集をしよう」

2 ねらい  
 他者とふれ合う楽しさを体得させ、他者と積極的にかかわろうとする意欲を高めると共に、児童相互の人間関係をつくったり、広げたりする。

3 他の教育活動との関連  
 「道徳の時間」における他者との気持ちよい接し方の実践の場として位置付ける  
 「日常的な活動」において、児童が互いにふれ合う場や機会を広げ、日常化へとつなげる

4 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点（関連上の留意点）
導 入 (5)	1 本時の活動のねらいと内容を理解する 学級のいろんな人とジャンケンをしたり話をしたりするゲームです。普通のジャンケンとは違うところがあるので説明をよく聞いて楽しくやりましょう。	・今日の活動の趣旨を説明する ・新年度を機に、新しい気持ちで楽しい学級づくりをみんなできていこうとする雰囲気作りをする
展 開	2 ジャンケンゲームを行う (1) 「1分間ジャンケン」ゲームをする 1分間にできるだけ多くの相手とジャンケンをして、勝った回数を覚えておきます。同じ相手とは続けてしないで、時間の許す限りいろんな人と行います。 (2) 「あいこでジャンケン」ゲームをする 今度はグー(0)、人差し指(1)、二本指(2)、三本指(3)、四本指(4)、パー(5)を使います。勝ち負けのジャンケンではなく、相手とあいこが出るまで続けます。同じ数になったらお互いに握手をして別れます。これを繰り返します (3) 「ジャンケントーキング」ゲームをする	・三つのゲームは、連続して行うので、端的に説明しテンポよく進める  ジャンケンの相手とは、「よろしくお祈いします」「ありがとうございました」の挨拶をすることが大切であることを補足する ・説明の際には、教師と一人の児童が実際にみんなの前でやってみせる ・「1分間ジャンケン」ゲームでは、「多くの児童とかかわること」、「あいこでジャンケン」ゲームでは、「自然に相手と目を見合わせ、気持ちを合わせようとする」と、「ジャンケト

## 5 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究のまとめ

本年度の研究目標は、2年次研究の完結年度として、昨年度作成した学級経営プログラムを活用した指導実践、その分析と考察をとおして、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方についての研究の妥当性を検討し、学級経営プログラムの改善・修正をすることであった。

ここでは、学級経営プログラムを活用した指導実践によって明らかになった成果と課題についてまとめる。

### (1) 成果

ア 児童相互の人間関係を、年間をとおして、「理解し合う関係づくり」から、「認め合う関係づくり」、「協力し合う関係づくり」、「尊重し合う関係づくり」へと段階的に育てる学級経営プログラムは、児童間に生じた人間関係にかかわる問題に対処する指導から、児童相互の好ましい人間関係を積極的に育てる指導への転換を図り、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を計画的、長期的に進める上で有効であること。

イ 「学級活動」、「道德の時間」、「各教科・総合的な学習の時間」、「日常的な活動」の各教育活動全体をとおして、児童相互の好ましい人間関係を組織的に育てる学級経営プログラムは、様々な教育活動において単発的に行われがちな指導を結び付け、それぞれの特質を生かしながら効果的に関連付けたりすることができ、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を意図的、重点的に進める上で有効であること。

ウ 児童が互いにふれ合い、互いの嗜好、習慣、興味・関心、行動様式等を理解し合う関係を育てることを意図したプログラムは、年度当初に行うことで緊張感をほぐし、児童間、男女間の交流を活発にさせ、児童の人間関係を広げる上で効果的であること。加えて、互いの理解が、次のプログラムでの活動へとつながり、効果的なこと。

また、プログラムの活用によって、挨拶やお礼等気持ちよいかかわりをしようとする児童が増え、学級の雰囲気がよくなったこと。

エ 児童が互いのよさや違いを理解し合い、価値あるものとして、認め合う関係を育てることを意図したプログラムは、自他の違いの理解から、違いをよさとして認め合う態度の育成、そして、よさを見つけ合う活動を連続させることができ、効果的な指導ができること。

また、プログラムの活用によって、自他の個性を認め合い、友達に積極的にかかわるようになったり、素直に自分の非を認めるようになったりする等児童の育ちが見られたこと。

オ 児童が互いによさを生かしながら、共に助け合い、共に協力し合う関係を育てることを意図したプログラムは、「道德の時間」でとらえた道德的価値について実践化を図る場として「各教科・総合的な学習の時間」、「学級活動」が位置付き、重点的な指導に役立つこと。加えて、行事との関連をもたせることで、より効果的な指導ができること。

また、プログラムの活用によって、児童が協力して物事を成し遂げることの楽しさを知り、行事等で互いに進んで助け合って活動する姿が見られたようになったこと。

カ 児童が互いの思いや考えを理解し、互いに高め合い、尊重し合う関係を育てることを意図したプログラムは、「道德の時間」で道德的価値を理解し、具体的な行動の在り方を「学級活動」で学び、日常の生活へ生かすといった関連がスムーズで、児童にとっては自然であること。

また、プログラムの活用によって、進んで自分の主張を率直に述べたり、相手の立場に立って互いにアドバイスし合ったりする等、互いによりよい関係や楽しい学級生活を築こうとする学級の雰囲気が醸成されてきていること。

キ 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める学級経営プログラムは、学級担任が活用する上で、指針となる「活用の手引き」や参考となる「活用例」「指導計画案」の例示を付記するといった改善・修正が必要であること。

## (2) 課題

ア 本実践は4学年の学級経営を対象として進めたが、他の学年における学級経営においても指導実践をし、学級経営プログラムの有効性をさらに検討する必要があること。

イ 指導実践を重ね、学級経営プログラムの改善点及び修正点をさらに探る必要があること。

以上のことから、課題は残るものの、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方についての基本的な考え方から作成した学級経営プログラムの活用は、小学校における学級経営の充実に役立つであろうという見通しをもつことができた。

## 研究のまとめ

この研究は、平成15年度から平成16年度の2年間にわたって行われたものであり、ここでは2年間の研究の成果と課題についてまとめることとする。

本研究の目的は、学級経営プログラムの作成と活用をとおして、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方を明らかにし、小学校における学級経営の充実に役立てようとするものである。

研究第1年次目に明らかにした児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の視点を基に、第2年次は、第1年次目に作成した学級経営プログラムを活用した指導実践、分析・考察、改善・修正を行い、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方について明らかにするという方向で研究を進めた。文献研究から児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める視点として「年間を見通した段階的な指導」「教育活動全体による組織的な指導」を見だし、これら二つの視点に基づく学級経営プログラムを作成した。そして、学級経営プログラムを活用した指導実践及びその分析・考察を行い、さらに学級経営プログラムを改善・修正した。

こうした研究の過程をとおして、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方について明らかにするための、本研究の研究の見通しが妥当であることを確かめることができた。

以下、具体的な研究内容に即して述べる。

### 1 研究の成果

#### (1) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営についての基本的な考え方の検討

主題にかかわる先行研究や文献により、児童相互の好ましい人間関係を構成する要素「相互理解」「相互受容」「相互協力」「相互尊重」を明らかにし、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方についての基本的な考え方を検討することができた。

#### (2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想の立案

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営についての基本的な考え方に基づき、学級経営プログラムにおける作成の視点「年間を見通した段階的な指導」「教育活動全体による組織的な指導」について明らかにし、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想を立案することができた。

#### (3) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営に関する基本構想に基づき、教育活動の関連を図った、四つのプログラム「理解し合う関係づくり」「認め合う関係づくり」「協力し合う関係づくり」「尊重し合う関係づくり」を作成することができた。

#### (4) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの活用

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方の手順及び留意点を、「年間指導構想立案」「各教育活動の指導計画作成」「実施」「評価・改善」の段階毎に明らかにすることができた。

- (5) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した指導実践とその分析・考察  
研究協力校における学級経営プログラムを活用した指導実践をとおして、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営についての基本的な考え方にに基づき、「年間を見通した段階的な指導」「教育活動全体による組織的な指導」の視点から作成した学級経営プログラムが、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上で有効であるという見通しをもつことができた。
- (6) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正  
児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した指導実践の結果の分析と考察から、学級経営プログラムの改善・修正の視点、「活用の手引きの付記」「内容の見直しと表記の工夫」「指導計画案の例示」を明らかにし、これらの視点に基づき、学級経営プログラムを見直し、改善を図ることができた。
- (7) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究のまとめ  
指導実践の分析・考察を基に、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方についてまとめることができた。

## 2 今後の課題

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営が十分機能するためには、児童と教師の信頼関係がその基盤として不可欠であると考えられる。したがって、今後、児童と教師の人間関係づくりも視野に入れた研究を進めていく必要がある。

おわりに

この研究を進めるにあたり、ご協力頂きました研究協力校の先生方、児童のみなさんに心からお礼を申し上げます。

### 【参考文献】

- 相川充 編 (1995), 『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』, 小学館  
安達昇・川崎史人・平井浩明 (2004), 『みんなとの人間関係を豊かにする教材55』, 小学館  
井上祐吉 (1996), 『学級集団経営』, 明治図書  
押谷由夫 (1995), 『総合単元的道徳学習論の提唱』, 文溪堂  
押谷由夫・伊藤隆二 編著 (1999), 『新小学校教育課程講座 道徳』, ぎょうせい  
菊池章夫・堀毛一也 編著 (2002), 『社会的スキルの心理学』, 川島書店  
岸田元美 (1980), 『人間的接触の学級心理学』, 明治図書  
埼玉県立北教育センター (1998), 『児童生徒の好ましい人間関係を育てる指導法の研究』  
佐賀県教育センター (2003), 『豊かな人間関係を育む学級経営の進め方に関する研究』  
下村哲夫・天竺茂・成田國秀 (1994), 『学級経営実践講座 学級経営の基礎・基本』, ぎょうせい  
田上不二夫 編著 (2003), 『対人関係ゲームによる仲間づくり』, 金子書房  
津村俊充 編 (2002), 『子どもの対人関係能力を育てる』, 教育開発研究所  
栃木県教育研究所 (1999), 『豊かな人間関係を育てる学級経営』  
永岡順・奥田眞丈 編 (1995), 『新学校教育全集 学級・学年経営』, ぎょうせい  
八田久弥 編 (2001), 『人間関係を豊かにする授業実践プラン50』, 小学館  
平井文雄・富山保・平林俊彦 (2000), 『新しい学級経営の条件』, 学陽書房  
山形県教育センター (2003), 『変化する子どもと信頼関係を築く学級経営の研究』

【別冊資料】『学級経営プログラム』